

令和4年度 第2回正副管理者会議議事要旨

【1】開会

【2】管理者あいさつ

＜管理者＞令和4年10月25日に招集予定の議会定例会に提出を予定している案件についてご審議をいただきたい。また、退職手当金積立基金への積立額の見直し、可燃物処理施設の現在の状況、消防庁舎の建設の状況等についても事務局より報告をさせていただく。

【3】議事

[1] 議会定例会（令和4年10月25日招集予定）提出議案

1 令和4年度鳥取県東部広域行政管理組合一般会計補正予算（第1号）

＜議案第10号＞（案）

＜事務局＞総額で555,038千円の減額補正をしたいと考えている。歳入の主な内容は、生産物売払収入としてリンピアいなば余剰電力売電収入173,763千円の減、雑入としてリンピアいなば建設工事の工期の遅延に伴う遅延損害金58,922千円の増、それらに伴う市町負担金の減である。

歳出の主な内容は、令和4年4月の定期人事異動に伴う人件費4,836千円の減、ごみ処理施設建設費101,147千円の増、ごみ処理施設管理費651,493千円の減である。

＜副管理者＞ごみ処理施設建設費の増のうち、その他業務費等とは何の増のことか。

＜事務局＞本来、令和4年8月1日から供用開始ということで、ごみ処理施設管理費で計上していた南法面の調査業務や環境影響評価業務をごみ処理施設建設費に組替をしたものである。

＜管理者＞この件について、事務局提案のとおり議会に提出することとしてよいか。

＜副管理者＞[了承]

2 令和3年度鳥取県東部広域行政管理組合歳入歳出決算の認定について

＜議案第11号＞（案）

＜事務局＞決算規模は、一般会計歳入が16,495,941千円、歳出が16,420,717千円であり、翌年度に繰り越すべき財源の繰越明許費繰越額9,615千円を差し引いた実質収支は65,609千円の黒字である。

特別会計は、歳入が2,524千円、歳出が2,244千円であり、実質収支は280千円の黒字である。

＜管理者＞この件について、事務局提案のとおり議会に提出することとしてよいか。

＜副管理者＞[了承]

3 鳥取県東部広域行政管理組合職員の福祉制度に関する条例の一部改正について

《議案第12号》(案)

＜事務局＞議案第12号案は、令和4年10月1日から地方公務員等共済組合法の一部改正に伴い職員互助会による福祉制度の適用対象外となる者を定めるものである。

＜管理者＞この件について、事務局提案のとおり議会に提出することとしてよいか。

＜副管理者＞[了承]

4 繰越明許費繰越計算書について《報告第1号》(案)

＜事務局＞報告第1号案は因幡浄苑のPLC修繕事業について、半導体不足によりPLC機器の納品に時間を要するというので、令和3年度内の履行が困難なため、繰越明許費繰越計算書を議会に報告するものである。

＜管理者＞この件について、事務局提案のとおり議会に報告することとしてよいか。

＜副管理者＞[了承]

[2] その他

＜協議事項＞

1 退職手当金積立基金への積立額の見直しについて

＜事務局＞消防職員に係る退職手当金積立基金への積立については、将来の退職手当必要額をもとに平成12年度から実施している。10年ごとに積立額の見直しを行っており、直近では令和2年度に見直しをさせていただいた。令和4年度から令和12年度にあつては、令和3年度から以降20年間の退職手当必要額を平準化した額である1億2,000千円を毎年度積立て、退職金への財源に充当することとしていた。このような中において、令和5年4月からの定年引上げが施行されるにあたり、改めて退職予定者数の推移の整理を行ったところ、令和5年度以降の10年間における退職予定者の数が、31人から5人へと大幅に減少する見込みとなった。このことを踏まえ、令和2年度の見直し時の考え方のもと、令和5年度から令和24年度までの20年間に係る退職手当必要額を平準化した額である72,000千円を毎年度基金へ積立していくよう見直しをさせていただきたいと考えている。

＜管理者＞この件について、事務局提案のとおりということではよろしいか。

＜副管理者＞[了承]

＜報告事項＞

1 可燃物処理施設建設工事ボイラ水漏れに係る影響調査及び原因究明結果等について

＜事務局＞ボイラ水漏れに係る調査結果についてJFEエンジニアリングから10月7日に報告があった。薬品を誤投入した飽和蒸気連絡管から3次過熱器まで応力腐食割れが確認された。機器の交換範囲は、安全を見て飽和蒸気連絡管からボイラ第一止め弁まで新規交換し、ボイラ内全ての水の入れ替えを行う。

スケジュールについては、12月末まで修繕工事を行い、令和5年1月4日から

ごみの受け入れを再開し、4月から供用開始となる予定である。修繕期間中は、鳥取市の神谷清掃工場でごみの受け入れを行う。

薬品誤投入の原因については、手順書の記載内容が曖昧で誤認しやすいものとなっていたこと、現場でのチェック体制の不備等があったということである。今後の対応としては、誰が作業しても間違えないように手順書を全面見直しし、作業手順のチェックリストを追加するとともに、作業前には作業員全員で手順を確認するとのことである。

2 可燃物処理施設建設工事の進捗状況について

< 事務局 > 薬品誤投入により応力腐食割れが発生したボイラ過熱器の交換を行うため、支障となる歩廊や階段、既存の過熱器の撤去を進めている。12月末まで修繕工事を行い、令和5年1月4日からごみの受け入れを再開、3月末まで試運転を行い、4月から供用開始となる予定である。

3 消防庁舎整備の進捗状況について

< 事務局 > 令和2年度に事業に着手した八頭消防署用瀬出張所整備事業については、令和3年10月から本体工事を行っており令和4年9月末に建築工事が完了し、現在完成検査を行っているところである。今後は指令設備の移設等を行い、今年中に運用開始する予定である。

八頭消防署若桜出張所整備事業については、今年度から事業に着手しており、現在、基本・実施・解体設計、地質調査を行っている。令和5年10月の定例会で議決を得た後、本体工事に着工したいと考えており、令和6年度中の運用開始を予定している。

気高消防署整備事業については、令和5年度の事業着手を目指して、現在、鳥取市と現在の気高消防署の駐車場での庁舎の建て替えや浜村鹿野温泉インターチェンジ付近への移転も含めて建設地の協議を行っているところである。

4 消防車両更新の今後の見通しについて

< 事務局 > 近年の世界的規模での半導体関連部品の供給不足に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による工場の稼働停止を受け、現在も部品の納入に遅延が発生している状況であり、一部の車種において納車が遅れている。今年度更新を予定している車両は、納期が2ヶ月から4ヶ月遅れる見込みとなっている。今後の見通しとしては、今年度発注の車両については、令和4年中に受注者にシャシが納入されれば、今年度中の納車が可能であるが、シャシの納入が間に合わなければ、来年度への繰越が必要となることも想定している。来年度以降更新予定の車両は、大型・中型車両が中心となっているため、現在の状況が続くようであれば、年次計画通りの更新が難しくなるため、単年度の更新から2ヶ年かけての更新を見込んでいます。そうなった場合には、今後の計画の見直しも必要になると考えています。

< 副管理者 > 更新を前倒しでやるというような予定はあるか。

< 事務局 > 来年度は湖山消防署のはしご車の更新を予定しており、もともとは令和6年度更新予定だったが、前倒して令和5年度から事業にとりかかりたいと考えている。

5 高機能消防指令センターの更新について

< 事務局 > 現在の指令センターは、平成26年に運用開始したが、設備更新を行う必要が出てきた。要因として1点目は、指令装置が9年経過していることから装置群の全体的な老朽化が進んでおり、今後の部品調達が困難になること。2点目は、NTTの固定電話回線の規格変更が令和6年から始まる予定であるが、東部消防局の119番の指令制御装置が新規格に対応しておらず、令和9年1月までには使用停止になること。3点目は、消防車、救急車等の緊急車両と指令センターを繋ぐ無線回線が令和7年度末に停止されることから、指令情報や車両の位置情報などのデータ伝送が使用不能となることが挙げられる。以上のことから、令和7年度末には更新完了する必要がある、施工期間等を考慮し逆算すると、来年度からの事業着手が必要となる。また、指令センターを消防局の3階から2階に移設する必要があり、併せて庁舎の改修も必要となる。

概算事業費は、部分更新は約4億円、全体更新では、庁舎改修費用を含め約14億円である。部分更新では他の設備の老朽化や今後の部品調達のことを考えると、数年後には全体更新に近い更新をする必要がある、部分更新では効果が薄いと考えている。

【4】その他

〔1〕今後の行事予定について

〔2〕その他

< 事務局 > 1件目はJFEエンジニアリング株式会社に対する指名停止措置について、10月7日付けでJFEエンジニアリング株式会社より今後の修繕対応、試運転の期間等が示され、引き渡しの時期が明確となったこと等を踏まえ、本組合指名停止措置要綱の規定に基づく「粗雑履行」に該当するとして、令和4年10月14日から令和5年1月13日までの3ヶ月間、指名停止措置を行うこととした。

2件目は、職員採用試験の状況について、第1次試験を9月18日に実施したところ、事務職1人程度の募集に対し8人、消防職の一般枠は、3人程度の募集に対し24人、高校新卒枠は2人程度の募集に対し12人の受験者があった。10月6日に試験委員会を開催し、事務職4人、消防職一般枠8人、高校新卒枠6人を第1次試験合格者として決定した。

【5】閉 会